

新水質指標を用いた試行調査を実施



国土交通省は多様な視点を取り入れた新しい水質指標を用いた湖沼の試行調査を全国で行い、その結果をとりまとめました。新しい水質指標は、2005年に河川において先行して用いられた指標を基に暫定的に設定されました。CODだけでなく、①人と湖沼の豊かなふれあいの確保②豊かな生態系の確保③利用しやすい水質の確保などの項目に留意したもので、これは河川管理者が測定したクロロフィルや大腸菌、トリハロメタンなどの数値や一般市民約300人が調査した水の透明度、においや汚れの調査を踏まえ星印の数で示したものです。

調査結果によると、2006年度公共用水域水質測定の結果、CODランキングで全国180湖沼のうち最下位になっていた静岡県佐鳴湖は、「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の項目において5位となり、従来の評価とは異なる結果が得られました。調査は今春から秋にかけて、国土交通省管轄の天然湖沼、湖沼水質保全特別措置法の指定湖沼、過去の公共用水域測定結果のCODでワースト5位以内に入った個所など、全国の19湖沼を対象に行われ、このうち12湖沼が「人と湖沼の豊かなふれあいの確保」の評価対象となっています。国土交通省は、来年度より本格的に調査を行う予定です。

当社では、総量規制項目の多検体・短納期分析を行っております。お気軽にお問い合わせください。

資料 2008年1月16日付 環境新聞

水質分析箇所 平出優香